

会議開催記録

会議名	第8回 菊川市総合計画審議会
日 時	平成 28 年 3 月 2 日（水）19：00～
場 所	菊川市役所 2階 201、202 会議室
出席者	審議会委員 11 名、事務局 4 名
議 事	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 （1）第2次菊川市総合計画 基本構想（案）【資料1】 （2）第2次菊川市総合計画 政策・施策指標（案）【資料2】 4 閉会
議事要旨	1 開 会 ・互礼 ・15名委員のうち、9名出席。過半数の出席により会議成立の確認。 ・議場配布資料および事前配布資料、資料1、補足資料、資料2の確認 2 会長あいさつ 会 長：こんばんは。年度末になり、あと2回の審議となりました。内容的にも煮詰まってきましたが、お願いがあります。今回の総合計画のアピールポイントとして、文章だけで終わらない総合計画にするために、文章では明確に見えなくてもその背後にはこのようなプロジェクトが入っていた、というような目玉を、今回の総合計画のカラーとして出して欲しいです。総合計画は文章で終わってしまうことも多く、今回は、そのようなことがないようにしていきたいと思います。委員から意見をいただいたのですが、やはり、危機感があると思います。例えば、牧之原市ではプロジェクトをやっていますが、相当厳しいです。子どもが減って小学校の統廃合もあり住民も危機感を持っています。伊豆市でもそうになっており、複式学級を嫌がって伊豆の国市に移転する人もいるくらいです。菊川市はそこまでいっていませんが、目の前まできている状態です。それに備えた総合計画であることを踏まえて、言葉の背後にこのようなことがあるということを考えながら作成していきたいのが私の考えです。よろしくお願いします。 3 議事 （1）第2次菊川市総合計画基本構想（案）について 事務局：資料説明。 会 長：ありがとうございます。変更部分を中心の説明でしたが、意見等ありますか。 委 員：当初、エキスがいないとのことですが、総合戦略のときも同じようなことを言いましたが、今回も同じようなイメージを受けました。あと2回でどこまでいけるかはわかりません

が、気になることを言います。9ページの8番の歴史文化の再認識で、拡大を前提としたまちづくりはこんなふうとなってきましたとの表現があります。だから、地域の文化を再認識とありますが、ちょっと、どのような意味であるのかわかりづらいです。安心安全なまちづくりで、よそでは、安全安心ということが多く、揃えた方がいいと思います。課題3の2行目で、新規就農者の推進、は増加のことかどうかわかりません。35ページ、菊川市の未来が、という文章は、住みたくなるまちとしての文章の意味がよくわかりません。未来はこのようなまちとして継承していくことを将来像としていくのか、まちづくりを進めていくのか理解しにくいです。37ページの都市軸で、「BP」はバイパスと書いた方がいいです。お茶は、茶なのか表現はどうなのでしょう。一般的に、飲み物はお茶、作物は茶が多いです。ここは生産環境なので、どちらでもいいが、決めておいた方がいいと思います。68ページで、農業生産により様々な農産物、とありますが、当たり前の表現すぎます。69ページの創出で、菊川が他農業モデルの検討、とありますが、菊川型農業モデルがすでにあり、それを展開していくのでしょうか。あと、「大雨などの異常気象」と「異常気象による大雨」などあるので統一して下さい。86ページの、用途地域内の農地の区画整理、は正しい表現でしょうか。87ページに、各種規制を充実し、とありますが、この表現で大丈夫ですか。

会 長：ありがとうございます。事務局で何かありますか

事務局：表現の統一など修正をしていきます。ご指摘いただいた箇所の修正を検討していきます。

事務局：お茶の「お」をつけると時つけない時の区別は、統一見解は難しいが意見を下さい。

委 員：市として考えがあればいいと思います。

事務局：茶業と相談しますが、統一見解をお願いします。

委 員：いわれてみればと思うことはありますが、お任せします。

事務局：市として統一見解をもつことで検討します。

会 長：文章として練れていないところはお願いします。茶草葉については、場か葉かどちらですか。

事務局：場です。9ページは間違いです。

会 長：前回では、駅北検討エリアが目玉になるとの意見があったが、文章としては出てきません。文章で読み取れる表現を入れたいが、その辺も含めて意見ををお願いします。

副会長：2ページの(1)、人口構成の変化に伴うは、年齢構成です。7ページ(4)で情報の格差は何の格差ですか。11ページのリーマンショックは、平成20年と入れた方がいいです。13ページ、インターチェンジの交通量が落ちているのは理由を補完したほうがいいと思います。16ページの商業の状況で、事業所は減少傾向、従業員数は横ばいで、販売額は増加傾向です。18ページの27年度歳入は188億です。29から31ページ、JR駅、鉄道駅、東名IC、東名菊川インター、駅、駅周辺など表現を統一して下さい。30ページ課題1で、良質な働き場所の良質は何でしょう。悪質というのがあるのですか。課題2で学校施設の耐震化とあるが、環境整備の表現の方がいいのではないのでしょうか。課題2で適切な支援と補助とありますが、「支援」と「補助」の住み分けは何ですか。大規模の「立地」は「進出」ではないですか。既成市街地は用途地域のことなのではないのでしょうか。住みよいだけならまちでもいいです。課題5に住みやすさ、暮らしやすさ、すみよさとあるが表現を統一して下さい。96ページに持続可能な、との表現がありますが、刹那的な表現なので変えた方がいいです。目玉として、菊川のまちはどこに立ち位置を置くのかを強調すると、菊川は住みよいという評価が高いです。菊川市に住んで、菊川で仕事をするというのは限定されるので、働き場所を菊川に求めるのではなく、住みよいということにポイントをもって行って、軸足を置いていけば、他市と違うのではないですか。参考までに、長泉町の連合会長自治会長さんと人口増の話をしました。増えると課題も山積みです。長泉は三島の一部で、駅のすぐ近くです。若い人は地元ではなく、東京に行く人が多いのです。そうすると地元との関係が希薄になっており、地元をまとめるのが大変とっていました。菊川はそのようなまちにならないようにと思いました。

会 長：ありがとうございます。

委 員：7ページのインターネットの情報の格差は、現実大きいと思っています。今後なくなるからいらぬのか、少し指摘の内容がわかりません。友達の9割はネットなどで繋がっていますが、1割は電話でないとだめな人もいて、連絡とろうにもやめておこうと思ってしまうこともあります。そこで、グループ分けができてしまっています。現実問題、メールが受け取れないとイラっとするので格差は大きいです。将来的には若い人は使いこなせているので問題ないといっているのですか。

副会長：格差はあると思っており、この格差は情報を受けたり発信したりする格差は大きいです。それが間接的に生活に影響してくると思っているが、格差が生じるだけの格差だけだと、いろいろ読めるので、明確にすべきです。

会 長：経済格差に繋がっている面もあります。ITを使いこなせないのは経済格差に繋がっていることもありえます。

事務局：情報取得の格差ということです。

委員：障害者差別解消法が施行されます。差別的取り扱いとか合理的配慮とかを議論してきて、法が施行されますが、障がいのあるところの課題に、障がいと医療関係がなかったのが気になりました。基本目標でも、差別解消に向けて掲げて下さい。工業団地の新しい造成の検討とありますが、単に造成とか検討ではなく、どのようなものを求めているのかになると思います。検討すれば1年以内に進出できる、土地が欲しいというときに、大規模で整地するより、土地だけストックしておいて、要望にしたがって造成するなどの方法もあります。菊川で進めていくときに、どのような企業を誘致して、そのためにどのような工業団地をつくっていくのかが入るといいです。菊川の文化資源として、水の農業用水が他の人が知らないような仕組みで、うまくつくられています。文化みたいな感じがします。文化といいながら、どこという具体性がないので、何か菊川の文化を再発見するような、つくりあげていくような方向性があってもいいと思います。

会長：ありがとうございます。菊川の文化を作り上げていくという指摘ですが、全体的にチャレンジする感じがおとなしいと思います。菊川の特徴かもしれないし、堅実でいいのですが、やや高い目標をおいて、それに向けていくという要素も欲しい気がします。各委員もバックグラウンドを持っているので、その立場から意見をもらえますか。

委員：ここで話し合えば次回にどう修正されるのか作業過程を知りたいです。49ページは前回も言いましたが、ほとんど変わっていません。この魅力ある、とか一人ひとり、など10年前から言われている言葉です。10年後を見据えた中では、この文章は弱いと思います。今の学校の形態が10年後も存続するとの前提です。学校の形態が変化すると言われているなか、ここで掲げている文章のすべてが古いです。今の学校形態が存続するという前提が10年後を見据えたものになっているか懸念しています。磐田市では学府化構想、掛川市では学園化構想とか、学校と放課後児童クラブとかの関係をどう検討するか行っており、そのような内容が施策にありません。一人ひとりを大切にし、は当たり前です。豊かな学び、も言葉が踊っています。作業部会を踏まえてのこの内容なら、その考えを教えてください。

事務局：前回と同じ表現であるとの意見ですが、教育委員会に検討を依頼しましたが、教育方針であるとか、市の計画もこの表現で推進しているなか、ここを変えるのが難しいとのこと。考えているが、意見としては他の計画との整合性もとるなか、この言葉でいければとのことでした。

会長：もし変えるとすれば、総合計画から変えるのか、既存の計画から変えるのか順番はどうなるのですか。

事務局：教育委員長と検討し、重く受け止めています。現状として、現在ありき、ということで、総合計画で先んじて変更には至っていません。他市の事例をみながら、10年後を見据えたものとして、内部で検討をしていきます。

委員：例えば、菊川の人口の２％は外国人ですが、人口を減少させないことを考えた場合、英語教育はもとより、ポルトガル語を導入するとか、ポルトガル語であいさつできるくらいの菊川にするとか、チーム学校の概念がこの中にありません。学校が今の形態で１０年後まで維持するのが難しいといわれているなかその内容が入っていません。３７年に本当にこの内容で耐えられるのでしょうか。危機感が感じられません。ＩＣＴはいいが、１０年後のＩＣＴをどう活かそうとしているのか。ＩＣＴを活用してどうしたいのか、将来像が見えません。他の先進的な学校とＩＣＴで結んで同時授業をやるとか、そのためのＩＣＴなら希望もあります。今の内容では希望がありません。１０年後に展望が拓けるような文章にしてください。

会長：ありがとうございます。

事務局：この下にある計画が前提となることはあります。菊川でも個別の計画が総合計画に沿った形で出来ています。個別計画は総合計画に沿ったかたちで出来ているので、それを活かそうとすると変わりません。第２次の総合計画にあわせて個別計画を見直してもらいたいとの考えもあるので、今回の策定でも、部長とのやりとりをしていますが、現状変わっていません。この言葉でいきたいとの考えがあるので変わっていません。

会長：企画担当部局は、板ばさみなることもあり、担当課が動かないと大胆には変えられないつらさはあると思います。新聞で市長が小笠高校と連携して、協定を結んでおり良いと感じました。地域と行政が一体となって新しいことをやっているのが、ここに出てこないのはもったいないと思います。企画部局から現実に関係しているとの前向きな話も入れて欲しいと働きかけて下さい。

委員：長泉の話がありましたが、人口が伸びているにもかかわらず、油断はしておらず、子どもの貧困化対策もやっています。子どもの貧困化が増えており、そこにどう安全網をはるかを長泉はやっています。貧困化といいながら、衣食住はある程度足りており、人との繋がりが無い貧困化対策として、夕食を一緒に食べるといったことをやっていることが、伸びに繋がっていると思います。そのような課題にいずれ直面するので、そのような課題をみて、それが本市にふりかかってくるので、そのような施策を考えていかないと魅力がありません。

会長：国際的なことも特徴なので目玉になると思います。

事務局：菊川の目玉として出していきたいが、表現として出ていないのはご指摘のとおりです。目玉としては、４０ページで人口が減っていく中、いろいろ影響がでてきて、総合戦略でも３つの柱を掲げており、基本目標の１の子育て教育は、他より色を出していきたいです。基本目標３農業の分野は、農業女子は全国でもあまりないので、色をだしていきたい

と思います。基本目標1で、単に環境を整えるのではなく、子どもにふるさとの愛着をもってもらうのは、他と違う色をだしていきたいです。それを高校にまで繋げたく、協定を締結しました。その辺は、菊川では9年間で色を出したいです。駅北については、86 ページで、現状課題のなかで、駅周辺の検討とか、良好な住環境をつくるのは、駅北を事業としてあげてはいますので、その辺は特色をもってやっていきます。

会 長：事務局としてのアピールポイントでした。時間も押してきたので、議題2の説明を受けてその後、委員から意見をもらいます。

（2）政策・施策指標について

事務局：資料説明。

会 長：ありがとうございます。意見をお願いします。2ページの乳幼児健診の目標値ですが、設定の仕方があまりにも慎重という感じは否めませんが意見はありますか。

委 員：他もそうですが、これでは行政資料になってしまいます。答えを予想して書いているだけになっているので、10年後の目標がありません。目標が現状維持で目標といえますか。答えをつくって、それを目標値にしている感じが、全ての分野で感じます。消極的だと思います。

会 長：ということは100%を目指せということですか。

委 員：多少でも目標値をつくるのが大切です。

会 長：7ページは、パーセントが下がっているが、意味がありますか。

委 員：13、14ページの産業部門の農業で、重点事業がありません。農業振興を大きな柱にしているのに、施策としては重点がないのはどうですか。

事務局：重点の印は、今、統一して、重点とするかどうか精査しているところです。

会 長：指標でちょっとというのがありましたら意見をお願いします。

副会長：アンケートするということですが、その内容が抽象的でわかりにくいと思います。実情を捉えられるか疑問です。例えば、幼稚園児の楽しい割合ですが、親に対して聞くのですか。それだと不十分だと思います。子どもが安心して学校にいける環境が整っているとありますが、何を持って環境が整っているのか。学校が楽しいか、についても、何を基準に楽しいのでしょうか。また、例えば、信頼できる先生がいるとして、このデータは外に出るので、そうすると信頼できる先生がいる、いないというのが出てくるのがい

いことかですか。そういう色々なところで、通信販売、訪問販売の少ないというのは何を持って少ないとするのですか。これで進めていくのは不十分です。子育て世代のスマホ普及率は、総務省で、50%といているが本当にそうですか。それは全体のことでないですか。それに 30%かけて、500 件のアクセスというのはどうでしょう。アプリにお金をかけるのに、投資に対してそれだけのアクセスは現実的にどうですか。3 ページに、安全安心して教育が受けられる環境づくりとありますが、小中学校の美化備品購入費が環境づくりになりますか。4 ページに、将来菊川市で働きたい生徒の割合がありますが、菊川市で働きたいというよりも、住みたいとのほうが現実的ではないですか。市内で働く場所は限られています。農林課の事業が突出しているが、他とのバランスがとれないのではないのでしょうか。18 ページ地域防災訓練の参加者数は、基本構想ともバランスとれていないのに、市民の防災訓練の参加を推進とありますが、目標は1万5千人です。菊川市の人口は4万7千人です。どのような考えで出したのですか。下水道事業の経費回収も、ここでは資本費が含まれるが、別では含まれない考えもあります。経費回収率が2重基準になっているのは問題です。

事務局：4 ページの学校評価アンケートの児童の割合や信頼できる先生の項目は、これまでも同じ設問で、第1次総合計画でもとってきたので、掲載が適切かどうかはありますが、これまで継続的に数値を拾ってきているので、問を変更するのは難しいと思っています。会長から指摘のあった、7 ページの数値が下がっている件は、要支援の割合が下がるとのことです。戦略でも議論の対象となりましたが、高齢者が増えるのに対して、要介護が増えるとの考え方のもと、それを抑制していく数値なので、担当課と話してこの数値になっていますが、再度協議します。

会 長：同じ高齢者でも後期高齢者の比率が増えてしまうということですね。

委 員：要介護認定を増やすとあるが、一方で健康で過ごすということも目標に掲げています。難しいところですね。

事務局：認定されている方と認定されていない方、足すと100となります。現実的な数値として、入っています。健康を目標にするに越したことはありませんが、介護が必要な人はいるといった現実があります。

会 長：担当課の調査をもとにしたものだと、変更するのは難しいとはあるかもしれませんが、10年後の目標なので、横ばいとかちょっとあがっただけは逆効果とも思います。目標は説明がつけばいいので、これだけ努力してこれだけです、というのがわかればいいのです。実現可能性だけでみると、外部評価で意見をもらえ、となってしまう。企画から担当課に希望をもてる目標値に変えるように働きかけて下さい。指標としてももう少し洗練されたものにして欲しいと思います。

委員：乳幼児健診について 100%の目標ではない理由が説明されましたが、外国人と意識の課題は解決できるものなので努力するべきです。

事務局：ありがとうございます。職員は、100%を目指していますが、毎年、子どもの入院が出るのであれば、それを引くなり、担当課と相談して、見直ししていきます。現状値を分析するときに、幼稚園とか児童を対象にするのは、現状、行っているアンケートをもとにしているので、変更は難しいです。市民アンケートは変更ができます。選挙権年齢が 18 歳となるので、アンケートも 18 歳以上を対象におこなっていきます。

会長：原案には数値指標がなかったので、進みましたが次回に意見を踏まえて検討をします。

委員：防災とかももう少し出した方がいいと思います。

委員：基本目標 2 で、福祉計画を策定したところです。バランスが取れた内容で、福祉計画で協議した内容が出ていますので、違和感はありません。実際に超高齢化社会が来ており、少子化も進んでいるので、財政的にも足をひっぱることになるし、高齢者本人が負担をすることも想定されるので、ここに力をいれるのはありがたく思います。難しい問題もあり簡単にはいきませんが、10 年先を見据えて、今よりも福祉施策が悪くならなければいいと思います。施策についても、アンケートをとっているものも、市民アンケートも増やしてもらえればいいと思います。学校のアンケートも学校単位では持っているものもあるので、このようなことを増やすのはいいことです。

委員：乳幼児健診は 100%がいいと思います。菊川市で事件はありませんが、他市では虐待が背景にある未受診があつたりします。もっと受診していない家庭に入ってもいいと思います。小学校中学校のアンケートですが、無記名でわからないと思いますが、信頼できる先生には丸をつけているが、心からそう思っているかどうかはわかりません。

委員：資料 2 のお茶工場についての目標は多いので、実際、もうちょっと少なくなると思います。知っている範囲では、ピークから生産量は半分くらいになっており、茶工場が 70%くらいになっています。年間通して稼働が悪いので、茶工場は減らしていったほうがいいです。農業茶業両方に言えますが、重点事業を入れる際に、まず、強い農業経営体をつくることに重点をおかないと、他に災いが出る可能性があります。百姓を少なくして、生き残る経営体をつくることまずやらないと、他ができなくなると思います。重点を入れる際には考慮して下さい。

委員：10 年後の目標値を決めるのは、会社でも 5 年後くらいしかもっていません。長期計画の目標は難しいと思うので、ざっくり目標立てるといった方法もありますが、高い目標を持ってそれに何が積み上げできるのかを検討して下さい。総合計画のまちづくりの課題で、新たな工場誘致の土地とありましたが、新幹線とか空港とかインフラについては、

不便な印象は海外の方はもっていません。出来るに越したことはありませんが、無理にインフラの整備をすると、維持管理にお金もかかるので、そのあたりは、色々配慮してやってください。

委員：目標値は、各担当課が出されたた数値だと思いますが、10年先の目標なので、高くあるべきだと思います。担当者にペナルティがあるかもしれませんが、高校野球でも1回戦突破とかでなく、10年後に甲子園に、などの目標を持たないと強くなれないので、到達できる目標は担当課にもっと高い数値をお願いします。

委員：序論部分が丁寧に分析されているのでいいと思います。しかし、基本構想の施策にはいると、施策体系の説明が繰り返しとなっているので、序論を踏まえた、施策体系の文章が良いと思います。企画財政部長もいるので、29年度スタートにあたっては、目玉事業は積極的に対応するとか、目玉事業を出させるのはできると思います。

委員：内容は充実してきたと思いますが、アピールが弱いです。3つの重点があったので、それが読み込めるような、この計画にあったから先進的なことをできたのだ、というのを見せて下さい。事務局と事前に協議もしますが、最終回に向けてまとめていきたいので、がんばって欲しいです。

副会長：農業に力を入るとありましたが、資料2の15ページ、施策②に茶の消費について、5団体とありますが、現在9団体のうち2団体、10年後には45団体に増えるとあり、そのうちPRが20%となっています。企画政策課で指向している方向と現場の課がリンクしていないので、現場の人にもどこを向いているかを理解してもらうようにして下さい。

会長：では、進行を事務局に返します。

企画財政部長：ありがとうございます。今、第1回の議会に予算を上程して、182億ということで、合併以降最大の規模です。前年から7%アップしています。地方創生の総合戦略として、1億7千万の事業を盛り込みました。元気のある予算にできたと思います。戦略を実施するにあたって、重要なポイントは2つあり、庁内の各部署が連携をしていくこと、よその事業所、NPO、金融機関などと一緒につくっていくなど、共創していくことが大事だと思っています。総合計画も庁内が連携してつくっていくのが大事だと認識していますが、現実には、セクショナリズムがあるなど、調整不足もあり、厳しい意見をもらっています。力不足も否めず、反省して、情熱をもって計画をつくっていきます。いただいた意見は誠実に回答するので、よろしくお願いします。

4 閉会

以上